ビアンコートＢ（BC-101B・BM）

施工対象：　フローリング・Ｐタイル等床材
使用材料一般名称：　一液常温硬化型ハードコーティング剤
使用材料：　ビアンコートＢ（BC-101B・BM）
メーカー：　株式会社 ビアンコジャパン

２５℃　湿度５０％

工程		使用材料	調合 重量比(%)	塗布量 (kg／㎡)	塗り重ね 乾燥時間 (25℃)	作業方法
1	素地調整	・ 素地に傷や変色がある場合には予め補修しておく。 ・ 汚れを洗浄によって丁寧に落としておく。 ・ ワックスは剥離剤等を利用して下地を傷めないように丁寧に落とす。 ・ 下地に水分が存在すると不具合の原因になるので、水分を充分に乾燥させる。（大量の水を使用した場合には、中１日以上あけて乾燥させる）。 ・ シンナーなどの溶剤を用いて洗浄した場合、溶剤が完全に揮発するまで乾燥させる。 ・ 施工直前には、ホコリを掃除機やダストモップ等で丁寧に取り除く。				
2	塗布 （フックモップ等）	ビアンコートＢ （BC-101B・BM） 主剤	100	0.02kg/㎡	3～4 時間	フックモップ等 メラミンスポンジ （小面積の場合）
		希釈用アルコール （ブタノール推奨）	～30			
	塗布 （吹き付け）	ビアンコートＢ （BC-101B・BM） 主剤	100	0.02kg/㎡	ー	低圧スプレーガン
		希釈用アルコール （ブタノール推奨）	20～100			

【留意点】

＊乾燥時間（２５℃、湿度５０％）※低気温下での施工の場合には下記以上の時間がかかる。
- 触指乾燥　　３０分
- 軽歩行可能　３～４時間
- 完全硬化　　３日間

＊完全硬化前に水分が長時間付着した状態にあると硬化不良がおこる場合がある。
＊完全硬化するまでは水がかからないように留意する。
＊屋外での塗装の場合には、降雨時ならびに降雨が懸念される場合は避ける。
＊ガラスなどの表面がフラットな下地では、塗装後に干渉縞が生じる場合がある。.

株式会社 ビアンコジャパン
Tel075-693-5531 Fax 075-693-5522

【施工上の留意事項】

〔施工前の確認〕

○ **必ず施工前に、メーカーサンプルなどを利用してテスト施工を行うか、目立たない箇所に塗布して、仕上がりや密着性について確認すること**。

- 「撥水性の高い素材」に対しては塗剤が素材に密着しないため、一般的な下地処理や、表面処理、ないしプライマーの塗布等が必要な場合がある（フッソ加工仕上げ、シリコーンオイル塗布、鏡面研磨面、ＥＢ(電子照射)処理した界面、オレフィン樹脂、メラミン樹脂、その他撥水機能を付与した素材など)。
- 浸透する素材では、表面に塗膜が形成されないので、重ね塗りを行うか、あらかじめ浸透しないように下地処理を行う（二液のウレタンクリアーを塗布する等)。
- 防音対策フロアーなどで用いられる「しなる」フローリング材や、直貼りの場合にはフリクが影響し塗りムラが出やすい。一枚一枚仕上げるように丁寧に塗布する。または、予め塗布したフローリングを貼り付ける方法をとると良い。

○ **一般的な塗料と同様に、気温が低いと硬化時間が延びる。気温・湿度等を確認すること。**
(**重要**：気温５℃以下、湿度７０％以上では施工しない)。

- 気温が高い時期は乾燥しやすいので、乾燥時間の長いビアンコート希釈液（ブタノール）を用いるとレベリングが良い。気温が低い時期はＩＰＡ（イソプロピルアルコール）やエタノールなどの揮発性の高い純アルコール（水分を含まないもの）を希釈液に用いると乾燥時間を早くすることができる。
- 高湿度な状態で施工すると、清掃後の湿気が残存して不具合が生じる場合（残存水分による白濁）や、気泡が生じる場合がある。

○ **施工前の段取りについては、充分に調整し、養生期間等に余裕を見て日程を組む。**

- 新築時や貼り替えを伴う場合には、塗布対象の素材をあらかじめ作業場等で塗布し、現場では貼り付け作業だけにすると品質管理がしやすい。

〔下地調整・清掃での留意点〕

○ 塗布前に下地の傷や劣化部位は予め補修を行う。ＴＯＰコートに一液性塗料を用いると、ビアンコートＢをモップ類で塗布した場合、アルコールに溶け不具合が出る場合があるので、補修業者と事前に打ち合わせを行う（二液性塗料をＴＯＰコートに用いるよう指導する)。
○ 塗布面に油脂分が残らないようにアルコール等を利用して丁寧に脱脂する。
○ 既存のワックスは剥離剤等を用いて、素材を傷めないように、出来る限り除去もしくは脱脂をする。
○ 下地洗浄時に大量の水を利用した場合、水分が残っていると硬化不良の原因となるので、中一日以上乾燥させるか、送風機等を利用して完全に乾燥させる。
○ 洗浄に溶剤等を利用した場合には、溶剤を完全に乾燥させる。
○ ホコリは、掃除機などを利用して丁寧に取り除く。特に塗布面だけでなく、室内のホコリが溜まりやすい箇所（窓枠、レール、巾木の上など）も、上方から順にホコリが残らないように清掃する。
○ 塗剤が付着してはいけない箇所は、塗剤が染み込んだりしないように、隙間無く丁寧にテープ養生等を行う。
○ 下地材として塗料を塗布した場合には、塗料の溶剤が完全に揮発した後に塗布する（溶剤の乾燥が不十分な場合には、ツヤ引けの原因となる)。

〔作業時の服装〕

○ 髪の毛や体毛等が落ちたりしないように帽子・頭巾をし、長袖・長ズボン（裾が締まるもの・ホコリや毛クズが発生しにくい作業着等）を着用する。

○ 作業中は汗が垂れないように汗止めをする。

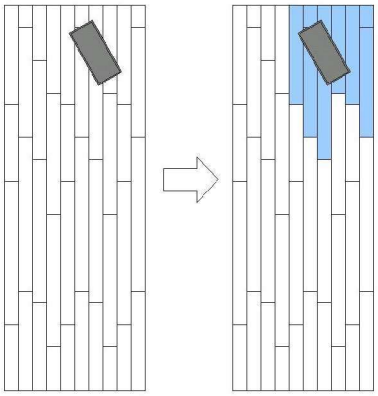
〔作業での留意点〕

○ 工期は余裕を見て組み、荷物の搬入等で無理な施工が生じないように留意する。

○ 部屋内の家具類は出来る限り移動し、床面を一気に塗布できる環境を整える。

○ 継ぎ塗りを必要とする場合には、フローリングの目地で縁を切るようにする（**図１**）。

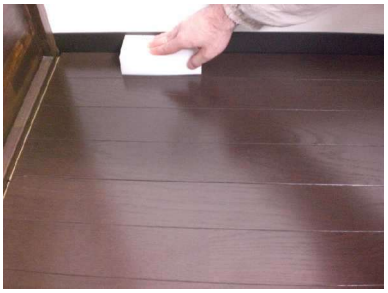
図１　部分的に塗布する場合



○ 厚塗りは割れやムラの原因になるので、**必ず、所要量を守り、限りなく薄く塗り延ばす**。

○ 壁際では薬剤が溜まり厚塗りになりやすいので、メラミンスポンジを利用して薄く塗布する（**図２**）。

図２　壁際の塗布



○ フックモップ（**図３**）等で塗る場合、充分に塗剤を含浸させた上で、写真のように充分に液を切り、**限りなく薄く塗布**する（液を切ることで厚塗りを防ぎ、薄く均一に塗布する）。



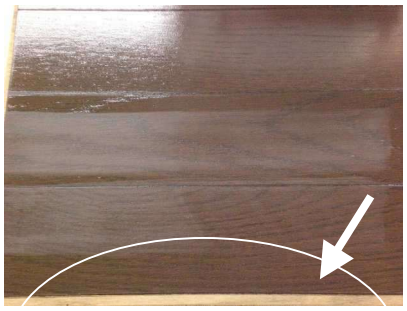




図３　フックモップ

○ 一度に大きな面積を塗ろうとすると、最初に塗布した箇所と液剤が少なくなった箇所で塗り厚に差が出、光沢に差が出る場合がある。液剤を無理に引っ張らないように、出来るだけ小面積ずつ仕上げる。
○ 一度塗布した箇所を乾燥する前に再塗布すると、塗剤を引っ張り、白っぽくかすれた仕上がりになるので（**図４**）、**二度塗りをする際には充分に乾燥してから行う**。また、施工中、同一箇所を繰り返しこすると、かすれる原因となるので注意すること。

図４　かすれた例



○ 低圧スプレーガン等を利用する場合には、出来る限り最低限の希釈で調整する（0.5-0.8㎜ 口径で２割希釈程度）。希釈しすぎると実現硬度が下がる場合がある。
○ 塗剤がミスト状に飛散しないように注意して機材の選択・調整を行うこと。
○ 作業中はミストを吸い込まないようにマスク等の防護具を装着すること。

〔塗布後の養生〕
○ 塗布後３～４時間程度で軽歩行が可能になる。それまでは塗布面を人が歩かないように注意すること。ただし、気温が低い場合には硬化時間が延びるので注意する。
○ **塗布後は、完全硬化するまで水がかからないようにすること**。完全硬化前の水分の付着は硬化不良の原因となり、白いフクレが生じる。
○ 硬化不良した場合には、その部分をサンドペーパー等で除去し、薄くタッチアップする。

【施工後のメンテナンス】

○ 完全硬化後の通常の汚れは、水拭きや中性洗剤によって洗浄する。
○ 靴底などによる樹脂汚れやマジックなどの汚れは、弊社「拭き取り用洗浄剤（ＢＪ 2000）」もしくはアルコール系洗剤を塗布し、白パッド等で軽くこすり洗いする。

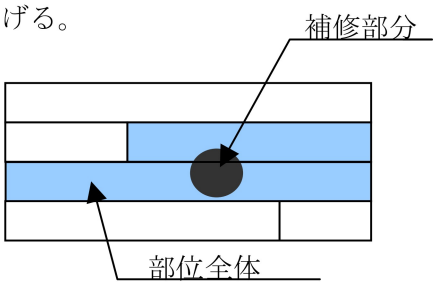
ビアンコートＢ補修方法

株式会社ビアンコジャパン
T.075-693-5531　F.075-693-5522

作業方法：

＃320→＃400→＃800→＃1500→メラミン仕上げ→清掃→養生→ビアンコートＢ塗布
（膜厚が高い場合のみ＃240 からスタートする）

1．最初に＃320 のペーパー（空研ぎ・水研ぎ併用可）で軽く擦り上げる。
※　この時に下地を傷めないように力は１/３程度ですする。
※　補修部分だけでなく、右図のように、部位全体にペーパーをあてる（均一な仕上がりにする為）。
※　ペーパーを当てた時の削り粉は番手ごとの作業終了後に清掃する。



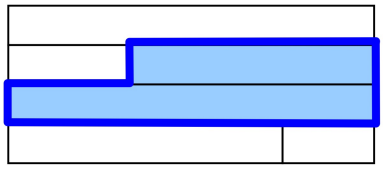
2．研磨後、ウェットタオルで拭き上げ、濡れ色を確認しムラが見えなければ、次工程へ進める。

3．＃320 の研磨終了後は、＃400、＃800、＃1500 と順番に目の細かいペーパーで擦り上げる
※　１．と同様に、下地を傷めないように擦りすぎに注意する。
※　１．と同様に、ペーパーを当てた時の削り粉は番手ごとの作業終了後に清掃する。

4．メラミンスポンジで表面を擦り上げ、掃除機・ウエス等を用いて削り粉等はきれいに清掃する。

5．清掃後、削った部分にビアンコートＢを薄く塗り込み、１分後、乾いたウエスで余分なビアンコートＢを拭きあげる。

6．ビアンコートＢを塗布する際に、右図のように、他の箇所に付着しないようマスキングテープ等で養生する。



7．ビアンコートＢを塗布する。

補修前　　補修後

